

# 自治大卒業生の声

## 自治大学校卒業生（第2部課程第196期）

岡山県井原市 多田 豪義

編集者注：本稿は、自治大学校における研修の特長などについて、自治大学校の卒業生が記したものです。

### 1 はじめに

井原市は、岡山県の西南部に位置し、広島県に接する人口約38,000人のまちです。

本市では、毎年度1名の職員を選抜して自治大学校へ入校させており、自治大OBである歴代の先輩方が幹部職員として第一線で活躍しています。

私は、人事部門に所属していた際に、研修担当として先輩方の入校に係る事務手続き等を行っていたこともあり、本市において限られた職員だけが派遣される自治大学校での研修に対し、いずれ自分も選抜されたいという思いを抱いていましたが、この度光栄にも指名を受け、基本法制研修B及び第2部課程の約2か月半にわたる研修課程の受講機会をいただきました。

### 2 研修概要

#### (1) 基本法制研修B第8期

研修期間の前半3週間弱（令和4年5月9日～26日）の日程で受講した、基本法制研修Bは、自治体職員として習得しておくべき基本的な法制度として、行政法、民法、地方自治制度、地方公務員制度及び地方財政制度の5課目について、講義形式で短期間に集中的に学ぶものでした。

第一線でご活躍されている講師陣による、濃密で広範囲に及ぶ講義内容には圧倒されましたが、全国各地から集まった研修生の皆さんの熱心に受講する姿に大きな刺激を受けながら、基礎知識を体系的に学ぶことができました。

#### (2) 第2部課程第196期

研修期間中盤から後半にかけての約2か月間（5月30日～7月20日）で、第2部課程を受講しました。

講義課目では、様々な分野でご活躍されている著名な方々を講師として、各分野において国や地方公共団体が抱える諸課題について、最新情報や制度改革の動向、具体的な取組事例などを学ぶことができました。

演習課目では、グループに分かれ、特定の自治体の特色ある取組事例を題材に議論・検討する「テキスト型」の演習や、研修生の所属自治体で実際に直面している行政課題を議論・検討する「持寄型」の演習、首長に提言することを想定して行政課題の解決に向けた政策を企画・立案する政策立案演習などに取り組みました。

「テキスト型」、「持寄型」の演習では、一つの事案に対してグループのメンバー各々から、自分とは異なる角度で捉えた考え方や意見を聞くことができ、新しい発見や気づきによる視野の広がりを実感しました。

研修カリキュラムの中の大きな柱の一つであり、最も多くの時間をかけて取り組んだのが政策立案演習です。

5～6人の研修生で編成された班ごとに、単なる調査・研究ではなく、実際に自治体の政策として成り立つレベルの企画を立案するもので、テーマ選定から現状分析、問題点の把握、課題解決策の提案まで、根拠に基づく理論付けを行って報告書にまとめ、最終発表会でプレゼンテーションを行います。

自治体規模も担当業務も異なるメンバーとチームを編成し、お互いに尊重し合いな

がら、幾度となく議論を重ね、限られた時間で一つの政策を作り上げる作業は、実際の業務にも通じるものがあり、政策立案能力だけでなくコミュニケーション能力やマネジメント能力の面でも大変有意義な経験となりました。



政策立案演習チーム

### 3 全寮制の研修生活

私自身、2か月半もの期間、妻や子と離れて生活するのは初めてのことであったため、期間中にまず実感したのは、家族の存在の大きさでした。

入寮当日の荷解きをはじめ、生活用具や教材、衣類などの配置・収納など、生活を送るための自室のセッティングだけで一苦勞。

翌日から発生する洗濯物や食事の心配など、普段如何に無意識に、あたりまえに生活を送っていたのかということに気付かされ、あらためて家族や身近な方々に対する感謝の気持ちを実感するとともに、自分自身を見つめ直す貴重な機会となりました。

独りで生活する不安と、高度な研修カリキュラムに対する戸惑いの中で、大きな支えとなったのは、同じ課程を受講する全国各地から集まった研修生の存在でした。

特に、寮の同じ階に宿泊するフロアメンバーは、研修時間外や休日も一緒に過ごすなど、寝食を共にし、時間を共有する中で、かけがえのない存在となりました。

いつもそばにいて、頑張る姿を見せてくれた仲間たちがいたからこそ、自治大での

生活を充実したものにできたのだと確信しています。

仲間たちとの出会いは、私にとって本当に大きな財産となりました。この仲間たちとの繋がりを、この先もずっと大切にしていきたいと思います。

### 4 おわりに

帰郷後、自宅や職場には入校前と変わらぬ日常があり、自治大での2か月半の生活が、まるで夢の中の出来事だったかのような、ふわふわとした、不思議な感覚を覚えました。

月日が経つにつれ、不思議な感覚は薄れましたが、一方で研修期間中の様々な出来事は鮮明に記憶しており、研修で学んだことや仲間と過ごした時間を思い出すたびに、自治大での経験が自分の中にしっかりと刻まれ、自信や誇りとなって、今の自分を動かしているのだと実感することができます。

このたびの貴重な経験を生かすとともにより一層の研鑽を重ね、皆さまへの恩返しができるよう、努めていきたいと思います。

末筆ではありますが、繁多な職場状況にも関わらず快く送り出してくださった上司や職場の皆さん、コロナ禍にあっても安全に素晴らしい研修を実施し運営してくださった自治大学校関係者の皆さまや講師の方々、そして、かけがえのない時間をともに過ごしてくださった研修生の仲間たちに、心から感謝を申し上げます。

ありがとうございました。

